

KAIA HANDOFF LOG v0.2

Counter — Stable Address / Template Revision / Design Save Recovery

Date: 2026-09-05

Status: CANDIDATE. Implementation has not started. v0.1 is retained as the earlier handoff. v0.2 adds the boundary clarified by PDF Team review; it does not replace product-specific PDF behavior.

Purpose

Counterの固定住所・型紙世代・ダウングレード時のDesign保持を、コードを太らせず実現するための設計ログ。PDF班レビューにより、Memoria共通LEGO候補とCounter固有ロジックの境界を追記した。

1. Stable Address — 名前ではなく固定住所

Binder類は固定アルファベット、配下の席は固定番号を持つ。ユーザー名は表札でありIdentityではない。UIにも住所を常時表示する。

A — Binder Name

01 夏祭り

02 Christmas

Machine identity: A-01 / A-02

「夏祭り」を「夏祭り2027」に変更してもA-01は変わらない。住所は表示順ではなく、一度発行した構造Identity。将来Deleteを追加する場合も発行済み住所を再利用しない。現在Delete機能がないため、未来の採番機構は今とは作らない。

2. Existing IDsを壊さない

Counter Standardには既にnumeric binder_id /

instance_idとper-instance保存がある。A-01のためにDB主キー、option名、shortcode ID、socket identityを総交換しない。既存machine IDを保護し、その上に固定表示住所を載せる方向を優先する。

3. Template Revision

Design Paper / 保存型紙には単調増加するTemplate

Revision番号を持たせる。番号はGrade名ではなく型紙世代。各ツール/Gradeは、自分が読める最大型紙番号max_templateだけを宣言する。新規作業では利用可能な最大番号の型紙をコピーして使う。

Template 01 / Template 02 / Template 03

Free max_template = 01

Standard max_template = 02

Creative max_template = 03

4. Grade遷移表を作らない

保存・復旧ロジックは「Standard→Free」「Free→Creative」のようなGrade名の遷移を覚えない。基本判定は型紙番号比較に縮める。

saved_template > max_template → 今は読めない。壊さず保持。

saved_template <= max_template → 読める。

Standard→Free→Creativeでも、Standard時代のsaved_template=02をCreative(max=03)が読める。元Gradeへ戻ったかどうかは判定しない。

5. Counter固有: PARKED DESIGN

Counterでは、同じ固定住所A-01に『ダウングレード前の上位Gradeで完成したDesign』と『下位Grade期間中に新しく保存したDesign』という、完成Design丸ごと2個が同時に有効になり得る。このwhole-Design collisionがあるため、読めない上位Designを住所単位で一時退避するPARKED DESIGNを候補とする。

PARKED DESIGNはStock/Refill/履歴ではない。Grade遷移履歴も持たない。固定住所 + saved_template + Design Save程度の一時的退避データとする。既存Design Book (Stock 1/1) は別責任なので流用しない。

6. 復旧 arbitration

後にsaved_template <= current max_templateとなった時、その住所のPARKED DESIGNは復旧可能になる。下位Grade期間中にその住所でユーザーSaveが成立していなければ自動復旧する。ユーザーSaveが成立していれば、新旧2つの有効Designが衝突したものとして一度だけ選択させる。

Untouched lower-side → auto restore parked upper Design

Lower-side user Save exists → Previous / Current を一度だけ選択

単なる画面表示、Preview、未保存操作を『下位側Design成立』と扱わない方向が有力。選択後は通常状態へ解決し、長期履歴管理にしない。

7. WordPress更新UIへの注意

Kaia独自のダウングレード警告機構を増やすより、WordPress既存の更新情報/バージョン詳細等へ注意書きを間借りする方向を優先する。実際に利用可能な既存部品は配布方式確認後に決定する。

注意文候補: ダウングレードを行うと、現在のデザインはリセットされます。

内部で復旧可能なDesignを保持していても、ユーザーへ複雑な救済仕様を要求しない。

8. Design Paperに混ぜないもの

Designの可搬データとruntime authorityを分離する。issuance number/history、12h lock、nonce、runtime state、Refill entitlement/capacity authority、Overflow LOCK、Socket state、purchase rights等をDesign Paperへ混ぜない。

9. PDF Team review — Shared LEGO boundary

PDF Team review result: COMPATIBLE — with one boundary.

Memoria共通LEGO候補:

- Stable Address Identity
- Template Revision
- tool max_template capability declaration
- non-destructive preservation

Counter固有 / need-dependent:

- whole Design evacuation (PARKED DESIGN)
- untouched auto-restore
- one-time restore arbitration

PDFは既存の『同一Stock内で未知/上位フィールドを保持し、下位ツールは知らない欄を壊さない』方式で十分なら、それを維持する。Counterの退避/復旧を自動移植しない。PDFでwhole-Design collisionが実際に必要になった場合のみCounter方式をdonor patternとして検討する。

10. Sharedしないもの

製品field list、Grade名、Counter固有のRefill/Binder事情、runtime authority、issuance/lock/socket/entitlement stateは共通LEGOにしない。共通化するのはstorage / identity patternのみ。

11. STOP RULE

Template Revisionの目的は保存機構を馬鹿にすること。導入した結果、保存機構が以前より考えるようになるならSTOPする。

If Template Revision makes the save system think more instead of less, STOP.

Grade別巨大if、field-by-field意味解析、複雑なdiff engine、Grade遷移表、長期履歴、複数世代バックアップ管理を作り始めたら設計失敗を疑い、施工を止めて仕様相談する。

12. Counter implementation direction

既存numeric identity/per-instance storageを保護し、Stable Addressを表示レイヤーとして追加する。Template Revisionを既存Design保存へ最小限載せられるか確認する。PARKED

DESIGNは必要時のみ住所単位で薄く追加する。既存Design Book/Stock 1/1、Socket、issuance、lock、Refill authorityを巻き込まない。

CURRENT DESIGN SUMMARY

Stable Address + Template Revision + max_template + non-destructive preservation

をMemoria共通候補とする。Counterではwhole-Design collisionが起きる場合のみper-address PARKED DESIGNを使い、下位側が手付かずなら自動復旧、ユーザーSaveがあれば一度だけ新旧選択する。Grade遷移そのものは管理しない。

CHECK STATUS

PDF TEAM REVIEW: COMPATIBLE / product boundary clarified

IMPLEMENTATION: NOT STARTED

SOCKET: separate checkpoint / PAUSED

PALETTE INCIDENT: separate issue / BUG unconfirmed / no code change

BLOCK: none

NEXT: Counter implementation thread — inspect the smallest safe insertion point for Template Revision.